

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（中部会場）概要

テーマ：情報リテラシーの鍛え方

演題：情報リテラシーの鍛え方

講師：佐々木 美緒 氏
京都精華大学 国際文化学部 准教授

会場：Zoom によるオンライン開催
(京都府立図書館 3階マルチメディアインテグレーション室より発信)

日時：令和3年12月2日（木）午後2時～4時

参加者数：17名

概要：今回は情報リテラシーにおいて私たちが理解しなければならないこと、図書館に求められる役割について考えた。

情報リテラシーとは、情報を主体的に活用する能力のことを指す。ただ情報を探索・収集するだけでなく、得た情報を整理・分析した上で、どのように表現・発信するかといった活用する能力を今回の「情報リテラシー」と定義づける。人間の処理能力を超える量と日々更新される情報を正しく理解するために、私たちの情報リテラシーを鍛える3つのポイントを紹介する。

一つ目は、情報が発信される仕組みと特徴を理解することである。伝統的に情報の発信者となってきたメディアに加えて、インターネットの出現は個人による情報発信を可能にした。社会的責任のあるメディアからの発信と比べ、個人による情報発信は正確性を判断することが難しいといえる。また、インターネット上で見つけられる情報は全体の一部でしかなく、行かなければ見られない、紙で見られない等の情報がある。情報の特徴を知り、多様な検索手段を持つことで、より正確な情報を得ることができる。

二つ目は、得た情報を読み解くことである。新聞の読み比べを例として、一つのニュースを複数のメディアから横断的に取得するように心がけ、情報を批判的な視点から読み、自分の中で整理する。日常的に行うことで情報を多角的な視点から読み解き、主義・主張の立場を見極められるようになっていく。また、分野ごとに信頼できる情報源を持つことで自分の物差しを養うことが大切である。

三つ目は、情報を表現してみるということである。自分自身が情報を表現する立場となることで、情報の存在意義を改めて考えることができる。発信に対する反響の有無に関わらず、そこから学ぶことは多い。

まとめとして、情報を膨大に取得することは容易になった一方、正確性を判断

することが難しくなった現代では、情報リテラシーを持っているか、どんな情報を得たかが知識の格差となっていく。その中で資料を広く収集し、利用者に提供する図書館は人々の情報リテラシーを育む場であり、情報で溢れかえる社会に秩序をもたらす存在であるといえる。情報リテラシーを個人で鍛えるだけでなく、図書館とは情報リテラシーが求められる社会において重要な役割を果たす存在であることを忘れてはいけない。